

2008年 審判員の目標と重点項目

p-140

2008年1月

審判委員会トップ審判強化部

目標

説得力あるゲームコントロールによる円滑な試合運びの追求

試合の中で、サッカーというスポーツの持つ醍醐味、特長、面白さが十分引き出されるためには円滑な試合運びが必要である。そのためには、審判員のゲームコントロールが重要な要素であることはいままでもない。競技者が判定に納得し、混乱することなくプレーに集中できる状況は、サッカーを見に来る多くの観客にもサッカーの面白さを十分伝えることができる。そこで、審判員の目標を「説得力あるゲームコントロールによる円滑な試合運びの追求」とした。

審判員は、競技者の意図を見極め、正しい判定を下し、的確なアドバンテージとともに、必要なところではしっかり笛を吹き、警告や退場の処分もきちんと与えなければならない。特に、サッカーの魅力であるスピーディなゲーム展開を妨げる遅延行為などにはしっかり対応したい。このような毅然とした対応が競技者を納得させ、結果として、サッカーの醍醐味、特長、面白さが引き出される。

重点項目

| | |
|------------|---|
| 判定 | (1) 激しくてもフェアなプレーとラフなプレーを見極める。特に、危険なプレー（足の裏、腕、肘の不正な使用など）は懲戒罰を含めて適切に対応する。 (2) 選手の意図を読み、小さくても悪質なプレーを見逃さない。 (3) 手の不正な使用を許さない。 |
| アドバンテージ | (1) アドバンテージを的確かつ積極的に適用する。 (2) 適用後の処置を適切に行う。 |
| 態度、姿勢 | (1) 精神的な強さ、冷静さ、毅然さを保つように努める。特に、異議やシミュレーションに対して強い信念を持って対応する。 (2) 明確なシグナル、必要なときに明快なジェスチャー等を効果的に使う（フラッグテクニックを含む）。 (3) 競技者の行為や反応など、様々なことに気づき、適切な対応をする。特に、対立関係を招くケースには、早期に、かつ積極的に介入する。 |
| ポジショニング、動き | (1) 正しい判定をするために、適切なポジショニングに努める。特に、ゴール前の争点を近くで、かつ良い角度で判定する。 (2) 試合の流れを読んだ動きを目指し、その質や量を高める。 |
| 協力 | (1) 自分の任務を確実に果たし、良いチームワークでゲームをコントロールする。 (2) 副審は、 <u>主審の要求に応じて</u> 、必要なところで積極的に援助をする。 (3) 審判チームとしてやらなければいけないこと（装身具やユニフォーム、スローインやFKの正しい位置からの再開、FKの際の10ヤードの確保等）を同じ基準で実施する。 |

* この「目標と重点項目」は、1級および女子1級審判員を対象に設定したものであるが、2、3および4級の審判員も参考にし、日頃の審判活動を行っていただきたい。